



第 14 回のテーマはこちら

「鎮静と安楽死」

～違いをきちんと説明できますか？～

鎮静と安楽死。この二つの言葉を聞いてどのようなイメージを持つでしょうか？

それぞれの言葉の意味は理解していても、特に終末期においてその違いを明確に区別しておくことは非常に重要です。もし患者・家族が「鎮静＝安楽死」と勘違いしている場合にうまく説明できそうですか？そのような場面に備えて、自分の言葉できちんと説明できるようにしておきましょう。

鎮静については「緩和ケアのちょっとタメになる話 Vol.6」で詳しく記載しているので参照してください。

安楽死には「積極的安楽死」と「消極的安楽死」があります。

消極的安楽死は自然死や尊厳死と関係しているのですが、今回のテーマとは少しずれますのでここでの安楽死は「積極的安楽死」と思って読み進めてもらえればと思います。

さっそくですが鎮静と安楽死の違いを見比べてみましょう。

	鎮静	(積極的)安楽死
目的	意識を下げることによる苦痛緩和	死による苦痛緩和
方法	深い鎮静をもたらす鎮静薬の投与	致死量の薬物の投与
成功した場合の結果	苦痛が緩和された状態	死による苦痛の終わり

比べるとイメージしやすいですが、目的・方法とその結果が全く違います。

安楽死は「意図的に死を目指す行為」なので「成功＝死」となるわけですが、もちろん鎮静の目的は死ぬことではなく「苦痛の緩和」なので「成功＝穏やかな状態」となるわけです。この違いをしっかりと理解しておき、必要な時に説明できるよう準備をしておく心安かなと思います。

ちなみにですが、日本では安楽死は認められていません。

しかし、世界を見るとオランダやスイスの他、ここ数年で安楽死を認める国が増加しています。もちろん厳格な規則のもとで行われているので誰でも安楽死ができるというわけではありません。それでも「安楽死が一つの選択肢になる」という社会がいずれ日本でもやってくるかもしれません。安楽死の是非についてはここでは触れませんが、そんな世界情勢も知っておくといいいかなと思います。